



特定非営利活動法人フードバンク和歌山

〒644-0011 和歌山県御坊市湯川町財部 778-7

TEL 080-3792-0000 FAX 0738-32-2401

<http://foodbank-wakayama.com>

E-mail: foodbank_wakayama@yahoo.co.jp



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

困窮世帯や子ども達を 地域と共に支援し、 明るく豊かな社会にする事業 事業報告書

特定非営利活動法人フードバンク和歌山

困窮世帯や子ども達を地域と共に支援し、 明るく豊かな社会にする事業

目次

はじめに	2
フードバンク和歌山の概要	3
事業概要	4
事業報告① フードバンク並びにフードドライブ活動	5
事業報告② フードバンク並びにフードドライブの活動風景	6
事業報告③ こども食堂	7
事業報告④ フードパントリー	7
事業報告⑤ こども食堂・フードパントリーの活動写真	8
事業報告⑥ 広報・周知活動	9
事業報告⑦ 広報・周知活動	10
事業報告⑧ アンケートの実施と結果報告	11
おわりに	12

はじめに

和歌山県のフードバンク団体である私達フードバンク和歌山は、今年度「困窮世帯や子ども達を地域と共に支援し、明るく豊かな社会にする事業」といたしまして、フードバンク活動とフードドライブ活動並びに、こども食堂、フードパントリーを実施しました。

フードバンク和歌山は、2015年の団体発足当初より「子ども達の貧困問題」の解消に向けたフードバンク活動を開始しました。活動を行うなかでこども食堂や学習支援の活動を知り、2016年に和歌山県御坊市でこども食堂を開始、2017年には学習支援を開始しました。さらに2018年から更なる寄贈食品の提供を募る為に、県内各地でのフードドライブ活動を開始しました。また2021年度よりフードパントリー活動を展開してきました。

これまでの経験を礎に、多くの皆様のご支援とご協力を得ることができました。事業を無事完了することができ、一定の成果が得られた結果、今後も事業を地域と共に継続的に行っていかなければ生活困窮世帯や子ども達の貧困問題の解決や、明るく豊かな社会の実現はできないと実感させられました。併せて事業を永続的に行っていくには、「財源の確保」と「人材の確保」という2つの大きな課題を解決しなければならないと改めて痛感させられました。

ここに事業報告を行うにあたり、事業趣旨を評価していただいた行政の皆様、社会福祉協議会の皆様、児童養護施設の皆様、母子生活支援施設の皆様、自立生活援助施設の皆様、県内のフードパントリー実施団体の皆様、県内のこども食堂の皆様、ファミリーホームの皆様、その他社会福祉団体の皆様、当団体の活動に賛同し、ご支援をいただいた支援者の皆様、そして、活動に協力していただいたボランティアの皆様、その他多くの皆様方に改めて厚く御礼を申し上げます。

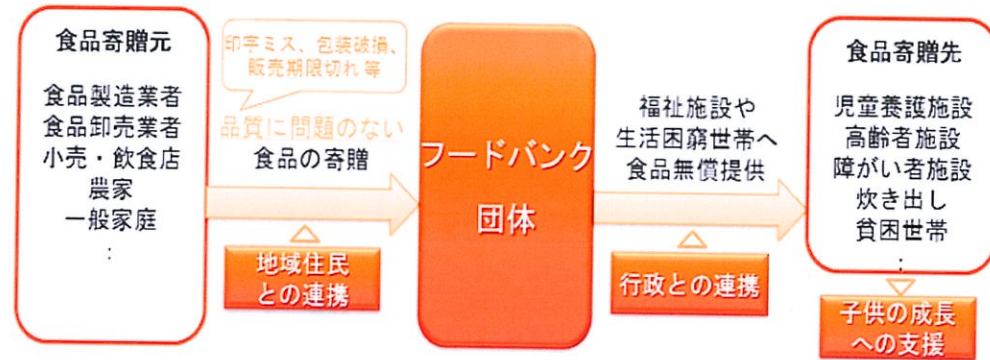
今年度の経験を活かし、来年度以降もより実りの大きい事業を展開していきたいと考えております。今後ともご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人フードバンク和歌山
理事長 古賀敬教

フードバンク和歌山の概要

フードバンク和歌山は、企業、食料生産者、卸業者、小売業者、個人及び行政組織等から、消費するには十分に安全な規格外食料品等を提供していただき、社会福祉施設や助力を必要とする人たちに食料品等を提供している非営利活動団体、生活困窮世帯及びその人達に支援を行う行政やこども食堂等に対して、食料品等を配付するフードバンク活動を行うことにより貧困問題を解決させるとともに、食品ロスが削減することにより資源の有効活用を促すことで、明るく豊かな社会の実現に寄与することを目的に、2015年7月に設立し、フードバンク活動やこども食堂、学習支援を展開してきました。また2017年7月には法人格を取得し、特定非営利活動法人として活動を行っているフードバンク団体です。

「フードバンク」とは、安全に食べられるのに包装の破損や印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品や、一般家庭などの余剰食品を寄贈していただき、必要としている施設や団体、生活困窮世帯に無償で提供する活動です。



「こども食堂」とは、地域住民や自治体が主体となり、無料（団体によっては低価格帯）でこども達に食事を提供することで、地域住民のコミュニティの中でのこどもの居場所を提供し、さらに、こども達の食育の推進やこども達の貧困問題などのケアを行う活動です。

「フードパントリー」とは、地域のひとり親世帯や生活困窮世帯など、様々な理由で日々の食品や日用品の入手が困難な方々に対して、無償で食品や日用品を提供する支援活動です。

事業の概要

これまでフードバンク活動やこども食堂、フードパントリー活動に取り組んできた中で、当団体はSDGz（持続可能な開発目標）の目標1に掲げられた「貧困をなくそう（あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符打つ）」は日本でも例外ではないと実感しています。和歌山県の貧困率は約19%（全国平均は約16%）で、県民の約18万人が貧困状態にあり、活動を実施してきた中で、食品等の支援を必要とする多くの生活貧困世帯の方々やこども達を目の当たりにしてきました。さらに新型コロナウイルス感染症が猛威を振る以前と比べて当団体への食品等の支援を希望する方々は増加しています。それは新型コロナウイルス感染拡大における様々な生活制限、経済の低迷の影響でさらに当団体へ支援を希望するニーズが増加したためです。その結果、現在ご寄贈をいただいている食品等では到底足りていないという課題があります。特にこども達がいる世帯からの支援の要望が増加しており、地域の生活困窮世帯を支援する関係各所と連携をして事業を継続して実施するとともに、支援を希望する皆様からのニーズを満たすために事業をさらに拡充していかなければなりません。

「困窮世帯やこども達を地域と共に支援し、明るく豊かな社会にする事業」は、上記の和歌山県内の困窮世帯やこども達の貧困問題を解消させることを目的に、県内の生活困窮世帯（子供がいる世帯を中心）や団体（母子生活支援団体、フードパントリー団体、こども食堂団体、児童養護施設等）に食品を定期的に配布するフードバンク活動、また活動拠点の地域において、毎週土曜日や毎月第4日曜日、学校長期休暇中の平日（祝日含む）にこども食堂、さらに活動拠点の地域において、毎週土曜日にひとり親世帯と障がい児のいる世帯を対象に、その世帯数に応じた食品等の配布するフードパントリーを実施することによって、明るく豊かな社会の実現するための事業です。

助成事業の概要	
助成事業名	困窮世帯やこども達を地域と共に支援し、明るく豊かな社会にする事業
事業期間	2022年4月1日～2023年3月31日
助成額	2,491,000円
事業内容	フードバンク活動とフードドライブ活動の実施 定期的なこども食堂の開催、フードパントリーの実施

事業報告① フードバンク活動とフードドライブ活動

フードバンク活動とフードドライブ活動における食品等の寄贈実績

	企業や施設	個人	合計
寄贈回数（延べ）	145回	184回	329回
寄贈量（トン）	約18.5トン	約3.2トン	約21.9トン

※寄贈食品量はフードドライブ活動での寄贈食品（約1.1トン）を含んでいます。

フードバンク活動における食品等の寄贈に関しまして、企業や施設等の団体85ヶ所（内フードドライブ活動：10ヶ所）から延べ145回、個人様は116名（内フードドライブ活動：60名）の方から延べ184回の食品等を寄贈していただきました。昨年度の食品寄贈回数は合計281回でしたので、フードバンク活動の認知度の向上並びに社会における子ども達の貧困問題への関心が高まっていると実感しました。

寄贈をいただいた食品等の量に関しましては、今年度は約21.9トンの食品等を寄贈していただき、昨年度の約23.4トンと比べて下回りましたが、寄贈をいただいた食品の割合において、お水の量が減少し、その分レトルト食品、カップラーメン、保存食品の寄贈が増加しており、支援先のニーズに合った食品を提供することができました。

フードバンク活動における寄贈食品の配布実績

	施設及び団体	生活困窮世帯	合計
配布回数（延べ）	318回	747回	1,065回
配布量（トン）	約16.2トン	約4.3トン	約20.5トン

フードバンク活動における寄贈食品の配布実績に関しまして、県内の行政、社会福祉協議会、ひとり親生活支援施設、子ども食堂並びにフードパントリー実施団体、その他社会福祉団体に延べ262回（総量約16.2トン）、生活困窮世帯（2023年3月現在18世帯）に延べ578回（総量約4.3トン）の食品等の配布させていただきました。

事業報告② フードバンク並びにフードドライブの活動風景



「JAグループ和歌山」様から「愛をコメてプロジェクト」で食品の寄贈をいただいた写真（左）



「JA紀州 女性会」様のフードドライブにより集めた食品を寄贈いただく写真（右）



「和歌山日蓮宗青年会」様から食品を寄贈いただいた写真（左）



「御坊ライオンズクラブ」様から食品を寄贈いただいた写真（右）



寄贈いただいた食品を配送先に応じて纏めて車で配送する写真（左）



2月26日に有田市でフードドライブを実施した写真（右）

事業報告③ こども食堂

こども食堂の実施回数および参加者数

	実施回数	参加人数 (延べ人数)
毎週土曜日	51回	749名
毎月第4日曜日	12回	350名
学校長期休暇期間の平日	46回	312名
合計	109回	1,411名

毎週土曜日と学校長期休暇期間の平日の12:00～13:00にこども達を対象としたこども食堂並びに、毎月第4日曜日の17:00～19:30にこども達とその保護者を対象としたこども食堂を開催しました。毎週土曜日のこども食堂は51回開催し延べ749名、毎月第4日曜日のこども食堂は12回開催し延べ350名、学校長期休暇期間の平日のこども食堂は46回開催し延べ46名が参加いただきました。

新型コロナウイルスの状況も緩和されるにつれ、1回あたりの参加人数がコロナ禍前に戻りつつあります。

事業報告④ フードパントリー

フードパントリーの実施回数および配布世帯数

	実施回数	配布世帯 (延べ)
毎週土曜日	51回	841世帯
合計	51回	841世帯

毎週土曜日の13:00～16:00にフードパントリーを開催しました。子供のいるひとり親世帯・障がい児のいる世帯を対象として、その世帯人数に応じた食品等を年間51回実施し、17世帯(延べ841世帯)に配布を行うことができました。支援を希望する世帯は増加しており、フードパントリー活動が周知されてきていると実感できます。

事業報告⑤ こども食堂・フードパントリーの活動風景



こども食堂に参加されるこども達が満足するように様々なメニューを用意している写真



毎週土曜日のこども食堂で食事を楽しむこども達の写真(左)



毎月第4日曜日のこども食堂で食事を楽しむこども達とご親族の写真(右)



こども食堂に参議院議員「世耕弘成自民党参議院幹事長」が視察された際の写真(左)



フードパントリーで世帯ごとに配布する食品の写真(右)

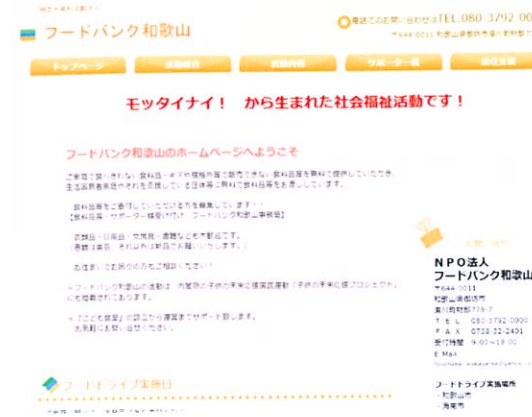
事業報告⑥ 広報・周知活動

広報活動として、ホームページ及びSNSを通じて随時情報発信を行ったほか、ポスター掲示、広報チラシ配布、地方紙の掲載、テレビの放映講演等の活動を実施しました。
メディア

新聞	日高新報	4月 9日	掲載
		4月 20日	掲載
		5月 1日	掲載
		5月 10日	掲載
		5月 29日	掲載
		7月 31日	掲載
		8月 9日	掲載
	10月 9日	掲載	
毎日新聞	10月 20日	掲載	
	4月 19日	掲載	
ラジオ	WBS 和歌山放送	4月 18日	放送
		2月 8日	放送
テレビ	WTV 和歌山放送局	4月 18日	放映
		11月 10日	放映
		11月 17日	放映
		2月 8日	放映
	読売テレビ	8月 28日	放映
WEB	Yahoo ニュース和歌山版	4月 28日	掲載

事業報告⑦ 広報・周知活動

ホームページ



日高新報 (7月 31日)



WTV 和歌山放送局 (4月 18日)



Yahoo ニュース和歌山版(4月 28日)

フードバンクへ米提供 J Aグループ和歌山



日高新報 (10月 9日)



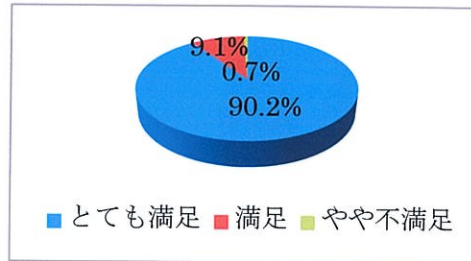
WTV 和歌山放送局 (11月 10日)



事業報告⑧ アンケートの実施と結果報告

満足度アンケートは、フードバンク活動は食品をお届けした団体等や生活困窮世帯の皆様に対して、こども食堂は参加者や保護者の皆様に対して、フードパントリーは食品を受取りにこられる皆様に対して実施しました。事業に関する満足度やニーズを明らかにすることで、今後の事業展開及び運営の参考にすることを目的として実施しました。

質問：フードバンク活動の満足度についてお答えください。

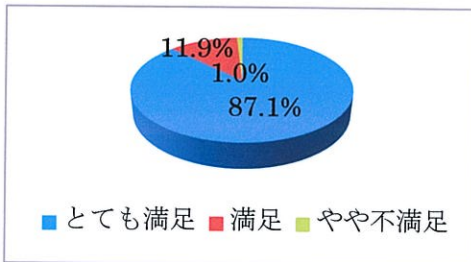


とても満足	257名 (90.1%)
満足	26名 (9.2%)
やや不満足	2名 (0.7%)
回答者総数	285名

アンケート回答の理由 (一部抜粋)

- ・いつも支援いただき誠にありがとうございます。本当に助かっています。
- ・お米やレトルト食品やお菓子までいただきありがとうございます。

質問：子ども食堂の満足度についてお答えください。

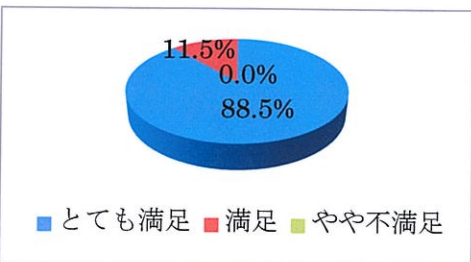


とても満足	169名 (87.1%)
満足	23名 (11.9%)
やや不満足	2名 (1.0%)
回答者総数	194名

アンケート回答の理由 (一部抜粋)

- ・スタッフの方が様々な工夫をしてくれて、いつもとても美味しいです。
- ・いつも美味しい食事をありがとうございます。

質問：フードパントリーの満足度についてお答えください。



とても満足	23名 (88.5%)
満足	3名 (11.5%)
やや不満足	0名 (0%)
回答者総数	28名

アンケート回答の理由 (一部抜粋)

- ・毎週、様々な食品やお菓子をいただきありがとうございます。
- ・子供もいつも喜んでます。ありがとうございます。

おわりに

フードバンク和歌山は子ども達の貧困問題を解消したいという思いからフードバンク活動を開始しました。その後、こども食堂や学習支援を開始し、昨年度よりフードパントリー活動にも取り組みました。近年フードバンク活動の認知度が向上し、企業や団体、個人の皆様方に当団体の活動をご理解いただき、活動が地域社会に浸透してきた結果、多くの食品等のご寄贈をいただきましたことを改めて御礼申し上げます。

しかしながら、フードバンク団体には活動を行っていく上で必要となる事務所、倉庫、配送用車両といったインフラ設備とその維持、運営や活動を行っていくための人手不足や運営費の不足等の様々な課題があり、それが原因で食品取扱量を増やすことができない団体や、活動を継続していけない団体も存在しています。当団体に関しても同様であり、皆様のご理解とご支援により多くの食品を寄贈していただいておりますが、その食品を配布するためには、今まで以上に運営費や人手の不足が課題になっています。永続的に事業を継続していくためには、その課題を解決しなければなりません。

その一方、昨今の物価上昇等の影響で緊急支援を希望する要望が増加しており、食品の提供先である施設や団体、生活困窮世帯等の提供希望先数に対しての食品量はまだまだ不足しており、今後もフードバンク活動は地域の生活困窮世帯や子ども達にとって必要不可欠なものであります。

こどもの貧困を放置すれば、地域だけでなく社会を支えていくはずの子ども達が、貧困の連鎖により支えられる側になる恐れがあり、それは人材の減少や市場の縮小、社会保障費の増大といった少子高齢化の負の影響に拍車がかかります。社会の担い手となる子ども達に本事業を通して支援することは、誰もが助け支え合う地域作りや子ども達の貧困問題の解消をするだけでなく、地域や社会にとって将来の担い手となる大きな財産を得ることができると考えています。弊団体は今後も活動を拓げるべく努めてまいります。

引き続きご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上